

第3回 国連防災世界会議への参画に当たって（2015/3/14-18）

テーマ：自然災害の被害軽減・災害からの復興と世界の未来
場所：宮城県仙台市青葉区

東日本大震災という未曾有の災害を経験した東北大学は「災害科学国際研究所」を設立し、東北大学の英知を結集して被災地の復興・再生に貢献するとともに、国内外の大学・研究機関と協力しながら、災害科学に関する世界最先端の研究を推進しています。そのため、復旧・復興の中でいち早く、大震災の経験と教訓を世界に発信し、防災・減災のあり方を考えなおすことの必要性を強く感じ、仙台市に協力し第3回国連防災世界会議を誘致することを支援させていただきました。

さらに、世界会議開催前から東日本大震災での課題、産学官の役割などを整理し、さらに政策等への提言を行いました。特に、兵庫行動枠組について、東日本大震災を通じたレビューを行い、その結果をレポートにまとめ日本語と英語で出版し、準備会合などでの議論をリード致しました。また、災害統計については、ESCAPなどの国連機関と連携し、2回のワークショップを大学で実施し、データ等の重要性和整備方針などにて議論しました。

会期中は、本体会議への参加だけでなく、パブリックフォーラム、企画展示、視察などの行事に積極的に参画していきました。様々なステークホルダーの参画を促し、広い議論を展開したいとの意図でした。そのため、「世界と語る防災・減災」「大学の役割とは？」「東日本大震災の経験と教訓を共有化し実践的防災学の構築を！」などのテーマを持ちシンポジウムやフォーラムを開催しました。また、東日本大震災の経験と教訓を発信し、未来に繋げるため、3Dドキュメンタリー映画「大津波 3.11 未来への記憶」の初上映、「歴史遺産を未来へ～災害から地域の歴史資料を守り伝える～」と題した展示なども行いました。

特に、3月15日(日)に開催された東北大学復興シンポジウム「東北大学からのメッセージ～震災の教訓を未来に紡ぐ～」(会場：東京エレクトロンホール宮城)では、冒頭に潘基文国連事務総長からの特別講演があり、「国連アカデミック・インパクト」のメンバーである東北大学の100を超える復興プロジェクトの取り組みについて評価され、「災害統計グローバルセンター」設置についても、新たなグローバル災害のリスク削減に向けた取り組みとして大変期待しているとお言葉を頂戴しました。

本ページは、災害科学国際研究所の取組と結果の概要をまとめたものであります。是非、ご覧いただきたいと思います。

災害科学国際研究所所長 今村文彦

(次ページへつづく)

